

特区で働こう!

金融・情報特区の企業と雇用
(平成22年8月末現在)

企業数	28社
雇用者数	990名

世界を見据えたビジネス ～プロローグから第二幕へ～



株式会社アクト・ツー
大城 央周さん **城間 夕稀さん**
 ソフトウェアプロダクツ事業部プロダクトマネージャーとして奮闘中。名護市大東区のご出身。大のApple好き。
 マーケティング & セールス(2)兼デザインディレクション担当。沖縄県立芸術大学(3)でデザインを専攻し、制作や広報関係の仕事を経て、4月に入社。本部町のご出身。



パースデー休暇もあり、仕事は「集中」、休みは「しっかり休む」とメリハリをつけている。



iPadも日常業務の中で活用している。iPadやiPhoneのアプリケーションの開発も行っている。

株式会社アクト・ツー

【本社所在地】
東京都渋谷区笹塚 1-62-3-2F
 【設立】
1990年12月
 【業務内容】
・コンピュータソフトウェア開発 / 輸入 / 発売
・act2.com オンラインストア
・企業向けテクニカルサポートサービス
 【名護市内の拠点】
名護市豊原 224 番地 3
名護市マルチメディア館内
 【ホームページ】
<http://www.act2.com>

※Appleとは、コンピュータのMacintosh(Mac)や携帯電話のiPhone、携帯端末iPadなどの開発・製造・販売を行っている企業

【本記事へのご意見・ご要望】

名護市政策推進部
金融・情報特区推進室
【マルチメディア館内】
☎ 0980-55-3333
FAX 0980-55-3332
✉ itf@city.nago.okinawa.jp

―業務内容について―
 (大城さん)海外で開発されたソフトウェア商品を日本人が使いやすいように日本語化して販売しています。そのため、日本のお客様からの製品に対する問い合わせ等について、海外の開発元とやり取りを行いながらサポートする業務を行っています。また、サポート業務のみならず、海外のソフトウェアの中から日本人のニーズにあった新しい

最新のコンピュータ・テクノロジー技術によって、絶えず新しいことにチャレンジしている大城央周さん、城間夕稀さんにインタビューを行いました。

―仕事のやりがい―
 (城間さん)海外の開発元とやりとりしたり、iPhone/iPadアプリを英語でリリースするなど、グローバルな仕事をしているのですが、社員は20名弱です。社員数が少ないので、社員同士の距離が近く、自分の提案や行動が会社の動きにダイレクトに結びつきます。

責任は大きくなりますが、自分が関わった業務で結果が出たときは非常に嬉しいです。インターネットがあれば、名護という場所に居ながらにして、世界を見据えた仕事ができます。それが最大のやりがいです。

今回は、MacのソフトウェアやiPhone/iPadアクセサリ製品を主に取り扱っている株式会社アクト・ツーの沖縄オフィス取材しました。

現在、革命的な機器として取り扱われていたiPhoneやiPadのアプリケーションも自社開発しており、Twitterのつぶやきやメールの件名などを読み上げるアプリがビジネスのカテゴリで高く評価されています。その読み上げアプリの名前は「ながらんちゅ」。沖縄に拠点がある会社だということを意識した名前がついています。

製品を探し、商品化するまでの担当も行っています。

(大城さん)製品名やキャッチコピーからはじまり、Webページのデザインまで一貫して取り組んでいます。弊社は営業と制作が一体となっているので、セールスポイントをデザインに直結して落としこむことが出来ます。今年の4月にサポート担当として入社しましたが、上司の方が私の適正を見極めて、現在の配属にしてくださいました。

また、10月5日～10月9日の期間において、千葉県幕張メッセで開催されるアジア最大級の規模を誇る情報通信の展示会(CENTEC Japan2010)にも出展して、自社製品を国内外の方へPRする予定です。

―今後の業務展開について―
 (城間さん)現在、iPhoneやiPadのアクセサリビジネスも展開中です。製品に傷がつかないためのZAGGシールドという保護カバーフィルムが好評です。ZAGGskin(ザッグスキン)というデザイン保護カバーでは、沖縄デザインの販売を予定しています。自然の景色や伝統的な柄がモチーフです。沖縄ならではの製品を、デジタルライフの中でも提案していきたいです。

―求人について―
 (大城さん)現在、沖縄オフィスにおいて人材を募集しています。求める人材としては、やる気・根性があり、「自分の出来ること」や「やりたいこと」が明確な方です。弊社に入社して感じるのが、頑張るほど会社がチャンスを与えてくれるやり甲斐のある企業だと実感していますので、ご興味がありましたら是非ご連絡ください。



**久辺テクノフェスタ2010
実行委員長 坂本 和人さん**

坂本さんは、名護市豊原にある沖縄北部雇用能力開発総合センターのセンター長です。久辺地域の特色を活かしながら、企業・関連施設・教育/研究機関・地域も一丸となってイベントを盛り上げたいと意気込んでいます。

特区で働こう!

金融・情報特区の企業と雇用
(平成22年9月末現在)

企業数	28社
雇用者数	997名

久辺テクノフェスタ2010! ～金融・ITに触れてみよう～

昨年度のイベント風景



地域の子どもたちを含め、多くの方が来場くださりました。今年も体験型の施設が多数あります!

久辺テクノフェスタ 2010

【開催日時】
平成22年11月23日
9:00~17:00

- 【開催場所】
- 沖縄工業高等専門学校
 - 名護市国際海洋環境情報センター
 - 沖縄北部雇用能力開発総合センター
 - 名護市マルチメディア館、みらい1号館、みらい2号館、みらい3号館
 - 豊原地区会館
 - 宜野座村ITオペレーションパーク
- ※久辺テクノフェスタのチラシについては5ページをご参照ください。

【本記事へのご意見・ご要望】

名護市政策推進部
金融・情報特区推進室
【マルチメディア館内】
☎ 0980-55-3333
FAX 0980-55-3332
✉ itf@city.nago.okinawa.jp



CEATEC JAPAN 2010 のブース
名護市のビジネス環境をPR

— 久辺テクノフェスタの目的 —
この久辺地域は、多くの情報通信・金融関連企業だけではなく、教育・研究機関なども集積している特色ある地域です。久辺

— イベントに対する意気込み —
同イベントの実行委員長を務める沖縄北部雇用能力開発総合センターセンター長の坂本和人さんにイベントに対する意気込みについて取材しました。

— 新たな輪の広がり —
今年、昨年と比べ新たな輪の広がりがあります。まず、豊原区においては、地区会館で飲食ブースを設置し同イベントに参加して頂きます。また、お隣の宜野座村も情報特区であることから、宜野座村字松田にあるITオペレーションパークも参加する運びとなりました。昨年にも増して、多くの関係機関の協力・連携を深めながら、イベントの規模も大きくなっています。

— イベントに対する意気込み —
9月から実行委員会および作業部会を定期的に言いながら、同イベントの準備を進めています。各施設において、趣向を凝らした体験型のイベントになるため、皆様に楽しんでもらえると思います。名護市街地

今月の「特区で働こう」では、11月23日(勤労感謝の日)に開催する「久辺テクノフェスタ2010」についてご紹介します。
名護市は平成14年に金融特区および情報特区の指定を受け、情報通信・金融関連企業の立地を促進しています。特に、中核拠点地区である久辺地域の豊原区においては、マルチメディア館、みらい1・2・3号館といった企業の集積基盤となる施設を整備しています。また、同地域においては、高等教育機関となる沖縄工業高等専門学校や研究・情報発信機関である国際海洋環境情報センター、北部の職業能力開発の相談・支援の窓口である沖縄北部雇用能力開発総合センターなどの施設もあることから、企業・教育訓練研究機関・地域が一体となってイベントを開催します。

地区を始め、名護市民を含む、多くの方々にも各施設について、知ってもらおうことが大きな目的であるため、一箇所ですべてを開催するのではなく、各施設に足を運んでもらう形で開催します。金融・情報通信関連の仕事に気軽に触れてもらう絶好の機会であり、昨年は約2千名の来場者があり大盛況でした。

からの送迎バスについても手配をしておりますので、多くの方々のご参加をお待ちしています!

最先端IT・エレクトロニクス展「CEATEC JAPAN 2010」において金融・情報特区をアピール
千葉県の幕張メッセで10月5日(9日)の期間に開催されたアジア最大級のIT・エレクトロニクス展「CEATEC JAPAN」に情報特区である「名護市」と「宜野座村」およびマルチメディア館に立地し、iPhoneやiPadのアプリケーショなどを開発している「株式会社アクト・ツー」において、特区の知名度・認知度の向上を目的に合同出展しました。やるばるのビジネス・生活環境をコンセプトに、「非日常であるリゾート」と「都市部と変わらないビジネス環境」を名護市の魅力として、DVDやパネル・パンフレットなどを使いながら企業誘致を行いました。連日、多くの来場者が詰めかけ、合同ブースに約2千名の方々が足を運んでくださいました。



名護イーテクノロジー株式会社
総務課長 比嘉 修さん

比嘉課長は、名護市城の出身。平成17年に入社し、総務課長を務めている。現在、繁忙期にむけた短期スタッフの求人について、「やる気のある方」を募集中!

特区で働こう!

金融・情報特区の企業と雇用
(平成22年10月末現在)

企業数	28社
雇用者数	987名

名護から運輸業務をサポート ～繁忙期のスタッフ募集～



10月18日に行われた北部の合同企業説明会において、新卒者および求職者に対して、企業の説明会を開催。

名護イーテクノロジー株式会社

【設立】 2002年9月25日
【資本金】 3000万円
(日本通運株式会社 100% 出資)
【従業員数】 210名(2010年10月末)
【所在地】
名護市豊原 200 番地みらい1号館
HPアドレス
<http://www.nago-etech.co.jp>



求人に対する問い合わせは弊社まで

※バックオフィスとは、対外的な営業活動等を行うのではなく、事務処理的な業務のこと。

【本記事へのご意見・ご要望】

名護市政政策推進部
金融・情報特区推進室
【マルチメディア館内】
☎ 0980-55-3333
FAX 0980-55-3332
✉ itf@city.nago.okinawa.jp

金融・情報特区について

続きはWEBで.....

<http://www.city.nago.okinawa.jp/7/6230.html>

金融・情報特区 キッズホームページ

<http://www.city.nago.okinawa.jp/7/6344.html>



採用スケジュール
毎年、九月～十月の時期に、新卒(高校・専門学校・大学)採用として、採用試験を行っています。また、中途採用については、新

会社の紹介
弊社は、日本通運株式会社の100%出資の子会社であり、日本通運グループのバックオフィス業務を行っている会社です。主な業務として、バックオフィス業務とカスタマーサポート業務に分かれています。バックオフィス業務では、日本通運の輸出入の一連の手配から、経理業務、車両管理業務などを行っています。また、カスタマーサポート業務では、内航船の到着案内の受付や、国内外引越の電話・メール受付、警備輸送運行管理システムのヘルプデスク等があり、コールセンターだけではなく、日本通運の様々な事務を担っている会社です。

今回の「特区で働こう」は、平成十四年に名護市に進出し、現在、多くの雇用を創出している名護イーテクノロジー株式会社についてご紹介いたします。現在、総務課長を務め、人事も担当している比嘉修さんに、名護イーテクノロジー株式会社様が求めている人材像に焦点をあてインタビューをしました。

求める人材
新卒採用者、中途採用者、短期スタッフなどによって、求めるスキルは異なります。しかしながら、求める人材像として共通する面は、「仕事に対する意識の高さ」を求めています。バックオフィスの業務は、地味な作業に見えるかもしれませんが、様々な事務業務を行っているため、随時、新たな業務を受け入れていかなくてはなりません。そのため、仕事に対して、前向きな態度で臨めることやチャレンジ精神が旺盛な方を希望しています。また、技術的な面では、パソコンをある程度使いこなせる方が好ましいです。コールセンター短期スタッフについては、これまで経験がなくても社内で研修を行う

たな業務の拡張や欠員補充などに合わせて、適宜、行っています。
なお、これからの季節は、国内の引越業務の受付が繁忙期を迎えます。そのため、十二月から四月上旬にかけて段階的に約五十名以上のコールセンター短期スタッフの求人募集をします。短期スタッフの試験の内容としては、簡単なパソコン操作のテストと面接をさせて頂きます。これから12月を目処に職安(ハローワーク)・求人雑誌等で募集掲載していきます。

弊社の魅力
弊社の従業員は、平均年齢が約二十九歳であり、多くの女性が働いています。そのため、女性が長期間働ける環境として、ライフサイクルに合わせた、育児介護休業制度や職場復帰制度なども定めています。
また、契約社員から正規社員への登用も積極的にを行い、これまでに20名以上の方が正規社員となっており、頑張っています。このように従業員に働きやすい環境を提供できるように努めています。

地域に対する思い
弊社は、創立八年目の若い会社ですが、地域に根ざした企業となるため、地域の学校からの企業見学から関係者に対する企業見学など、様々な視察の受け入れを行っています。また、地域の草刈作業などにも積極的に参加し、交流を深めています。

ので、心配なく業務をスタートできます。
このように従業員に働きやすい環境を提供できるように努めています。



株式会社アイベックス
取締役 加藤 隆由さん 取締役 阪 直幸さん

4月からコールセンター業務の開始を行うため、
元気ある前向きな方を募集!

特区で働こう!

金融・情報特区の企業と雇用
(平成22年11月末現在)

企業数	28社
雇用者数	975名

お客様とのファーストコンタクト! ～オープニングスタッフ募集～

今回の「特区で働こう」は、平成22年11月に名護市マルチメディア館に入居した株式会社アイベックスの加藤隆由さん、阪直幸さんにこれからの事業展開や求めている人材像についてインタビューをしました。

— 会社の紹介 —

弊社は、愛知県名古屋にあるダイキン空調機特約店の日本環境設備株式会社の子会社になります。親会社である日本環境設備株式会社は、コールセンターを東京と名古屋の2拠点に構えています。その一元化を図るため、平成22年9月に設立されました。業務の内容としては、親会社において取り扱いをしている空調機器の法人向けテレマーケティング業務を行っています。

具体的には、アウトバウンド(※)のコールセンターで、法人向けに最新の省エネエアコン導入のご提案や空調機器のリサーチ業務です。

— 採用スケジュール —

空調機器のコールセンターであるため、繁忙期が春先から夏頃になります。そのため、1月から段階的に30名程度の求人募集をかけて、2月～3月中に業務研修に入り、4



メッセージ
女性が働きやすい環境づくりに取り組んでいきます。
(株)アイベックス

株式会社アイベックス

【設立】 2010年9月9日
【業務概要】 法人向け高効率空調機器のテレマーケティング業務

【所在地】
名護市豊原 224 番地 3
名護市マルチメディア館 112

【連絡先】
0980-50-0500



求人に対するお問い合わせは弊社まで

※アウトバウンドとは、案内などの電話を外へかけること

【本記事へのご意見・ご要望】

名護市政策推進部
金融・情報特区推進室
【マルチメディア館内】
☎ 0980-55-3333
FAX 0980-55-3332
✉ itf@city.nago.okinawa.jp

金融・情報特区について

続きはWEBで.....

<http://www.city.nago.okinawa.jp/4/3259.html>

金融・情報特区 キッズホームページ

<http://www.city.nago.okinawa.jp/7/6344.html>



月からコールセンターの業務を本格的に稼働する予定です。
また、採用前には、BPO人材育成講座(コールセンター講座)も予定されていますので、コールセンター業務に興味がある方は、是非、受講して頂きたいと思えます。
採用試験の内容としては、面接を行い、求人や講座の情報については、ハローワークなどにおいて周知していきます。

— 求める人材 —

弊社は、設立されて間もないコールセンターですが、親会社が行っている業務のノウハウが既に蓄積されているため、教育システムやマニュアルなどは、既に整っています。そのため、コールセンターの経験がなくても、大歓迎です。なお、今回の採用は、オープニングスタッフとなるため、学歴などは一切問わず、前向きで明るく元気な方を求めています。しかし、業務を行うにあたり、パソコンの入力ができる方を希望しています。

— 働く環境 —

弊社はアウトバウンドのコールセンターであり、電話をかける先としては、病院等

が主になってきます。そのため、「一方的に電話を切られたり」、「怒鳴られたり」することは少ないです。また、時代の流れにより、省エネやエコへの興味・関心が高まっているため、お客様も話を聞いて下さる方が非常に増えています。

また、コールセンターの業務は、お客様とのファーストコンタクトを行う大事な仕事であるため、従業員には、長く働いてもらいたいと希望しています。そのため、勤務時間も6時間程度にし、負担をかけないように配慮しています。また、コールセンターは女性が多く働く傾向にあるため、「育児手当」の支給も検討しております。

— 今後の計画について —

まずは、4月から開始するアウトバウンドのコールセンター業務を稼働軌道に乗せて、3年後には60名体制のセンターにすることを目標としています。



新たな産業である情報通信・金融関連産業において、産学官が連携しながら、金融ITキャリア教育を推進し、次世代を担う人材を育成しています。

特区で働こう!

金融・情報特区の企業と雇用
(平成22年12月末現在)

企業数	28社
雇用者数	975名

次世代を担う人材! ～金融ITキャリア教育～

名護市は、平成14年に日本で唯一の金融・情報特区に指定され、情報通信・金融関連産業を新たな柱として位置づけています。市内に情報通信・金融関連企業を誘致し、多くの求職者に対して、雇用拡大に向けて推進しています。また、平成16年には、県立高等学校では「初」となるファイナンス(金融)科が沖縄県立名護商業学校(現在の名護商工高等学校)の新設や沖縄工業高等学校の開設など、市内の教育機関における金融やITの人材育成においても注力を注いできました。

その一方で、沖縄県北部地域の完全失業率は、依然、高い状況にあり、「初等・中等教育の段階から、仕事をする意味や地元の産業について理解し、勤労観・職業観を育てること」が地域内において重要になっています。

そこで、今回の「特区で働こう!」では、名護市における金融ITキャリア教育の取り組みをご紹介します。



源河小学校の5・6年生 企業見学



久志中学校1学年 企業見学



久志小学校5年生 親子IT体験教室



久志中学校2学年 インタビュー・撮影方法を学ぶ

—金融ITキャリア教育—
名護市における新たな産業となる情報通信・金融関連産業の仕事内容等を知ること、金融・ITに対する興味・関心を抱かせ就業観を育むことを目的に実施してま

—これまでの取り組み内容—
これまでの取り組みの一部をご紹介します。久志中学校の二学年の授業では、「身近にある企業」をテーマに職場訪問等を通して、産業界のほかに望ましい勤労観を身につけ、主体的に進路を選択する能力を育む取り組みを行いました。

金融・情報特区について学習した後、実際にカメラマンやディレクターなどの役割分担をしながら職業体験をし、企業の方々にインタビューや撮影を行い、DVDとしてまとめています。

また、久志小学校の5年生の授業においては、金融・情報特区や企業見学のマナーについて学習した後に、IT技術を体験する機会として、親子IT体験教室も実施しました。同教室では、簡単なプログラムを作成し、画面にあるキャラクターを動かしたり、見かけを変えたりするプログラミングの人

す。「産学官」が連携し、「事前学習・体験学習・事後学習」の3段階でビジネスマナーなども盛りこみながら実施しています。平成22年度は主に市内の小中学校・中学校・高等学校・専門学校・大学において計20回、14校で授業を実施しました。

—最後に—
職場見学などを通して、働く人との関わりを持ち、次世代を担う子供たちが、将来の夢に向かって意欲を高められるよう、今後も推進します。

—生徒の声—
このように、金融ITキャリア教育を実施することにより、児童・生徒から「名護にも色々な仕事があることを知った」、「マナーは相手に対する思いやりであることを確認できた」などの声が寄せられています。

門を行い、どのようにゲームが作られているのかを学習しました。また、インターネットを閲覧する際の注意点などについても触れ、ルールやマナーについても親子で学習しています。

金融・情報特区について

続きはWEBで.....

<http://www.city.nago.okinawa.jp/4/3259.html>

金融・情報特区 キッズホームページ

<http://www.city.nago.okinawa.jp/7/6344.html>



【本記事へのご意見・ご要望】

名護市政策推進部 金融・情報特区推進室

☎0980-55-3333 FAX 0980-55-3332

✉itf@city.nago.okinawa.jp



平成22年度 企業誘致セミナー
 名護市に進出見込みの県外企業
 (10社、15名)が2泊3日の日程で
 名護を訪れました。ビジネス展開の可
 能性についてPRしました。

特区で働こう!

金融・情報特区の企業と雇用
 (平成23年1月末現在)

企業数	28社
雇用者数	963名

企業誘致セミナー ~企業から選ばれる名護市へ~



マルチメディア館の視察



立地企業の視察
 (株式会社外為どっとコム)



意見交換会



名護市の中心市街地の紹介

— 企業誘致セミナー —
 2月1日〜3日に名護市および特定非
 営利活動法人NDA主催による「企業誘致
 セミナー」を開催しました。本セミナーは、
 情報通信・金融関連企業の進出を促し、
 更なる雇用の創出につなげるために、進
 出見込みのある県外企業10社(15名)が名
 護市を訪れました。
 「名護市の取り組み状況」や「地域の特
 色」、「市内の教育機関の紹介」、「立地企
 業の視察・意見交換会」等を設け、名護市
 を肌で触れて頂き、具体的な進出の契機

平成11年のマルチメディア館の開館か
 ら、情報通信・金融関連企業を誘致して、
 現在、28社の企業が名護市に立地していま
 す。その企業で働いている方は、963
 名(平成23年1月末現在)ですが、依然
 仕事を求めている方々は、非常に多い状
 況です。
 そこで、今月の「特区で働こう!」では、
 2月号で紹介した人財育成(金融ITキャ
 リア教育)と同時に積極的に推進している
 情報通信・金融関連産業の「企業誘致」に
 ついて、紹介します。

— 意見交換会について —
 名護市の特区関連施設や市内の教育機
 関、立地企業の視察を終えた後、進出検
 討の企業が抱えている疑問点を解決して
 頂くため、名護市・名桜大学・既に立地
 している企業を交えて、意見交換会を実
 施しました。
 名桜大学に対する質問として、「中国語
 を話せる人材の状況」や「沖縄県内の学生
 は県内志向が多いのか?」などの質問があ
 りました。

となるように実施しました。
 — 現地の視察について —
 まず、名護市で整備した特区関連施設
 であるマルチメディア館、みらい1〜3
 号館のオフィスについて視察しました。
 また、企業にとって重要となる人材を輩
 出している市内の教育機関(名桜大学、沖
 縄工業高等専門学校)を視察し、名護市の
 教育機関の現状についても紹介しました。
 なお、北部地域の雇用状況等について、
 把握して頂くために、ハローワーク名護
 からの説明がありました。

— 最後に —
 昨今、全国の自治体において、企業誘
 致を活発に行っている状況です。そのよ
 うな中で、企業から「選ばれる名護市」と
 なるための街づくりを推進し、更なる雇
 用の創出に
 向けて、取
 り組んでい
 きます。

また、立地している企業に対しては、
 「リーダー級の人材については、どのよう
 に採用をしているのか?」、「名護に立地
 を決めた最大の理由は何か?」など、積極
 的な意見交換がなされ、進出のイメージ
 が描けるようにしました。
 — 進出検討の企業の声 —
 今回のセミナーに参加くださった企業
 の皆様からは、「実際に名護を訪れてリア
 ルな情報を収集することができ、進出検
 討の大きな材料となった」、「地域の方々
 に触れることにより、名護のホスピタリ
 ティレベルの高さを実感することができ
 た」などの声が挙げられています。

金融・情報特区について
 続きはWEBで.....
<http://www.city.nago.okinawa.jp/4/3259.html>
 金融・情報特区 キッズホームページ
<http://www.city.nago.okinawa.jp/7/6344.html>



【本記事へのご意見・ご要望】
 名護市政推進部 金融・情報特区推進室
 ☎0980-55-3333 FAX 0980-55-3332
 ✉itf@city.nago.okinawa.jp